



2023年度 6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催

教務課

2023年6月19日(月)・20日(火)両日の午後、創立130周年記念館で卒業論文発表会を開催し、約390名の6年次生が発表しました。

薬学専門教育科目「総合薬学研究」は3年次後期から所属する分野等(研究室)の教員指導のもと、課題研究について研究手法を習得し、研究の楽しさ・難しさを学び、得られた結果の検討や成果をまとめて6年次に卒業論文発表会で発表します。



発表会はポスター形式で行い、ポスターの作成及び発表は英語で行います。質疑応答及び評価は発表する学生1名に対して、学生が所属する分野等(研究室)の専門領域とは異なる教員2名が行い、より多角的な指導を受けます。これによって発表後に取り組む論文執筆にも良い影響が出ることが期待されています。

CONTENTS

■ イベント

- 2023年度 6年次生 総合薬学研究 卒業論文発表会開催…………… 1
- 理科実験講座
- 「身近な夏の不思議体験 2023 イン山科」…………… 11

■ スペシャル企画

- 【学生企画】美味しさ・笑顔届けるキッチンカー…………… 4

■ お知らせ

- 京薬会だより…………… 3
- 2023年度生涯研修プログラムのお知らせ…………… 14
- 人事異動…………… 16
- Library News…………… 16
- 市民向け公開講座「京のやくたちばなし」…………… 17

■ コラム

- 十人十色「1年後のわたし」…………… 13
- 学生相談室だより…………… 18
- 卒業生からのメッセージ…………… 19
- 私の薦める、私の一冊…………… 20

■ 報告

- 【寄稿】名誉教授授与にあたって…………… 3
- 第108回薬剤師国家試験の結果について…………… 6
- 【寄稿】国立台湾大学における
Research Day and International Conferenceへの参加報告…………… 9
- 2023年度京都薬科大学給付型奨学金表彰式を執り行いました…………… 10
- 薬用植物園活動報告 Vol.1…………… 10
- 【寄稿】薬学とアーティスティックスイミング、両方で輝きたい…………… 12
- 2024年度大学院の入学選考結果…………… 19
- 受賞・掲載…………… 21
- 京都薬科大学奨学寄附金芳名録…………… 24

また、今年の卒業論文発表会は入場制限がなくなり、学部4～6年次及び大学院の学生が自由に参加できるようになりました。学生同士の活発な議論をする様子も多く見られました。学部4～5年次生の研究意欲の喚起にもつながり、将来の発表者として心構えを持つことができたのではないのでしょうか。

今年度の発表会は参加者が増え、さらに活気が増して盛会のうちに全日程を終えることができました。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



<2023年度 卒業論文発表会スケジュール>

日時		系	分野等
6/19 (月) 午後	13：30～13：50	準 備	
	第1部 13：50～14：40 14：40～15：30 (50分交代)	基礎科学	健康科学
		病態薬科学	病態生化学
			臨床薬理学
			薬理学
			臨床腫瘍学
		統合薬科学研究施設	シナジーラボ
	放射性同位元素研究センター		
	共同利用機器センター		
	15：30～15：50	休憩・ポスター貼替	
第2部 15：50～16：40 16：40～17：30 (50分交代)	医療薬科学	薬剤学	
		薬物動態学	
		臨床薬学	
		臨床薬剤疫学	
	薬学教育	臨床薬学教育研究センター	

日時		系	分野等
6/20 (火) 午後	13：30～13：50	準 備	
	第3部 13：50～14：40 14：40～15：30 (50分交代)	病態薬科学	薬物治療学
		創薬科学	薬化学
			薬品製造学
			薬品化学
			生薬学
		附属施設	薬用植物園
	15：30～15：50	休憩・ポスター貼替	
	第4部 15：50～16：40 16：40～17：30 (50分交代)	分析薬科学	薬品分析学
			代謝分析学
			薬品物理化学
		生命薬科学	衛生化学
			公衆衛生学
			微生物・感染制御学
			細胞生物学
生化学			
病態生理学			

【寄稿】名誉教授授与にあたって

Report

■ 名誉教授 中田 徹男

2023年6月30日に、木曾理事長、松田事務局長、ご担当職員の皆様のご臨席のもと赤路学長より4月1日付で「名誉教授称号第57号」を拝受いたしました。本学には26年の長きにわたりお世話になりましたが、この間には薬学部6年制への大きな転換などがあり、お役に立てたかは甚だ疑問には思っております中、歴史と伝統のある京都薬科大学からこのような称号を授かることは、身に余る光栄であり、心より御礼申し上げます。

在職中には教職員並びに分野学生の皆様には大変お世話になり、無事定年を迎えることが出来ました。今後は、頂戴した称号に恥じぬよう第二の人生を歩んでまい

りたいと考えております。皆様のご健勝と京都薬科大学の更なるご発展を祈念しております。



(左から)赤路学長、中田名誉教授、木曾理事長

News 京薬会だより

愛学躬行歴史資料室から

★牧野富太郎の京薬来校時に撮影された写真データのご寄贈★

NHKの朝ドラ「らんまん」の主人公榎野万太郎のモデルとされる牧野富太郎博士（1862～1957）が本学（京都薬学専門学校の時期）に来校した時の写真、および貴船で植物採集をしている様子を写した写真データを千葉科学大学名誉教授の木島（このしま）孝夫先生（学校法人京都薬科大学監事）から愛学躬行歴史資料室に寄贈していただきました。木島孝夫先生は、本学の生薬学教室をご卒業後、1973（昭和48）年から2003（平成15）年まで本学で教鞭をとられていました。

写真は、1996（平成8）年3月にご逝去されたご尊父の木島正夫先生が旧蔵されていたものです。木島正夫先生は1913（大正2）年に京都のお生まれで、1936（昭和11）年に京都薬学専門学校をご卒業後、東京帝国大学医学部薬学科を修了され、京都帝国大学医学部で助手をつとめられました。そして戦後の1946年5月から1965年3月まで京都薬学専門学校、ついで京都薬科大学（1949年創立）において教授職に就かれていました。その後は京都大学薬学部教授、北海道薬科大学教授から同大学学長に就任されて1990（平成2）年にご退職されました。

本学来校時の写真2葉は1940（昭和15）年頃のもので、京都帝大助手時代の木島先生ほか、当時の京都薬学専門学校長の藤井勝也先生と嶋田玄弥先生（生薬学教室教授）が写っています。また、同時期かと思われますが、牧野博士が洛北貴船で植物採集をしている貴重な写真も見られます。牧野博士は貴船でキブネダイオウ（現在、絶滅が危惧されている）を発見しています。

11月末頃まで、愛学館東側エントランスにおいて展示していますので、この機会に是非ご覧ください。

（愛学躬行歴史資料室長：鈴木 栄樹）



愛学館エントランスの展示



貴船で牧野博士が植物採集している写真

／学生企画／

美味しさ・笑顔届けるキッチンカー

みなさん、こんにちは。KPU_{NEWS}編集委員の学生です。
学生企画第1弾！京都薬科大学のキッチンカーの紹介です。

京都薬科大学では、ほぼ毎日キッチンカーが出店しており、
学食以外にも美味しいご飯が食べられるんです。

みなさん、利用したことはありますか？

今回は、利用している人も、まだ利用していない人にも
京薬のキッチンカーについて知ってもらいたいと思います！



～どんぶり編～

<さつまキッチン>



焼肉屋さんが作った
本気のお弁当！
がっつりお肉が食べたい時にオススメ！

<オリンピック食堂>



お肉の料理が
選び放題！！



<dining 湊屋>



鶏！豚！牛！迷うな～～



<inosen cafe>



他様々な味のピザが！
あなたはどれを選ぶ？



本格マルゲリータ！



<CHAPPI>



あなたはトマト派？
デミグラスソース派？



～洋食編～



黄色のキッチンカーは、
玉子の色かしら(笑)

<喜久屋>



揚げ物は
やっぱり最高！

<和>



時間がなくても
混ぜて美味しく
食べられる！
まぜそば。

<テラチンクエチエント>



～アジア編～



断面がすごくキレイで
す！
これぞ萌え断!!
キッチンカーでSNS映
えをねらおう！

～Bread 編～



個包装されていて
持ち運びしやすいですね。

<パンのHAYASHI>



前を通るだけでも
目移りします。



～関西編～

<咲たこ>



小腹が空いたら
たこ焼きだ～!!



～Sweets編～

<ルンモンカフェ>



豆乳を使った生地が
こだわりだそうです。
甘いものを食べて、午後
の授業も頑張ろう!!



いかがでしたか？
学食もおいしいですが、
キッチンカーでお昼ご飯を
買って外のベンチでランチ
してみませんか？

毎日、違ったお店が出店している
ので、飽きることなく楽しめると思
います。

では、また次回の学生企画を
お楽しみに～！



第108回薬剤師国家試験の結果について

ストレート（6年）で卒業し、1回で合格しよう！

そのためには低学年次からの学修の積み重ねが重要—雨垂れ石を穿つ！—

Report

薬学教育研究センター長 細井 信造

6年制薬学となり12回目の第108回薬剤師国家試験が2023年（令和5年）2月18日、19日に実施されました。第106回から新薬剤師国家試験出題基準に準拠して出題されています。難易度は前回の第107回に比べてやや平易でしたが、以下のことが特記事項として挙げられます。

◆全ての科目で医療や臨床に関連した問題が多くなり、特に「薬学教育モデルコアカリキュラム（令和4年改訂版）」の個別化医療を意識した、複数の疾患を合併した患者への対応を問う問題、個々の症候や検査値から判断して処方提案を行う問題など臨床現場で薬剤師に求められる「問題解決能力」が問われる問題が多く出題されていました。

◆構造式、図、グラフを用いた問題が数多く出題され、また代表的8疾患（がん、高血圧症、糖尿病、心疾患、脳血管障害、精神神経疾患、免疫・アレルギー疾患、感染症）に基づいた問題も継続して出題されていました。

◆多職種連携やかかりつけ薬剤師など、チーム医療の中で薬剤師の職能を発揮するための知識や判断力が求められていることがうかがえる出題が増加しています。また、周産期医療、歯科受診勧奨など医療の現状を反映した問題も出題されていました。

薬学理論問題では「物理・化学・生物」と「衛生」の3連問、「薬理」と「病態・薬物治療」の2連問など科目横断的に考える問題が出題され、このような問題は今後益々増えていくことが予想されます。全体的には、「日々医療情報を収集し、幅広い知識をベースとした問題解決能力を持った即戦力となる薬剤師を国は求めている」問題であったように感じました。

表1. 男女別、設置主体別合格率

(1) 男女別合格率①

区分	総数	男	女
出願者	15,334名	6,047名 (39.44%)	9,287名 (60.56%)
受験者	13,915名	5,361名 (38.53%)	8,554名 (61.47%)
合格者	9,602名	3,549名 (36.96%)	6,053名 (63.04%)
合格率	69.00%	66.20%	70.76%

(2) 男女別合格率②

区分	総数	男	女
6年制 新卒	出願者	9,595名	3,482名 (36.29%)
	受験者	8,548名	3,025名 (35.39%)
	合格者	7,254名	2,589名 (35.69%)
	合格率	84.86%	85.59%
6年制 既卒	出願者	5,474名	2,401名 (43.86%)
	受験者	5,146名	2,202名 (42.79%)
	合格者	2,267名	915名 (40.36%)
	合格率	44.05%	41.55%
その他	出願者	265名	164名 (61.89%)
	受験者	221名	134名 (60.63%)
	合格者	81名	45名 (55.56%)
	合格率	36.65%	33.58%

(3) 設置主体別合格率

区分	総数				6年制新卒				6年制既卒				その他			
	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率	出願者	受験者	合格者	合格率
国立	631名	608名	502名	82.57%	474名	471名	426名	90.45%	73名	64名	34名	53.13%	84名	73名	42名	57.53%
公立	320名	312名	265名	84.94%	250名	250名	228名	91.20%	44名	38名	21名	55.26%	26名	24名	16名	66.67%
私立	14,383名	12,995名	8,835名	67.99%	8,871名	7,827名	6,600名	84.32%	5,357名	5,044名	2,212名	43.85%	155名	124名	23名	18.55%
その他	0名	0名	0名	0.00%	0名	0名	0名	0.00%	0名	0名	0名	0.00%	0名	0名	0名	0.00%
本学	419	381	337	88.45%	373	341	310	90.91%	41	37	26	70.27%	5	3	1	33.33%

さて、今回の試験では国公立併せて73大学15,334名が出願し受験者総数13,915名中、合格者は9,602名で合格率は69.00%（第107回：68.02%）でした。6年制新卒の全国合格率は84.86%と第107回（85.24%）に比べ僅かに低下しました。また、6年制既卒者の合格率は44.05%（第107回：40.75%）と前回と同様に新卒に比べてかなり低く、新卒合格率との差が大きい傾向にあります。本学では新卒者341名が受験し、合格者は310名（合格率90.91%）、6年制既卒者は37名受験して合格者は26名（合格率70.27%）、4年制既卒者は3名受験して合格者は1名、本学総合合格率は88.45%で、全国総合7位（第107回：6位）でした。2021年度に続き2022年度もCOVID-19の影響で入構および対面授業が制限され、また留年経験者の割合が比較的大きかった学年でしたが、前年度と同程度の結果となった要因として以下のことが挙げられます。1) アドバンスト薬学では、問題演習に重点を置き、問題演習量を増やしたこと、2) 指定学生の在り方、選定基準および実施内容を見直したこと、特に2次指定学生から更に重点学修支援対象者を選抜し、別枠でプログラムを実施したこと、3) アドバンスト薬学の講義は全て収録後、できる限り早くオンデマンド配信し、視聴できるようにしたこと、4) 反復学修の一つの機会としてデイリーテスト及びウィークリーテストを実施したこと、5) 学内教員および外部講師による講義の質問対応の機会を設けたこと（メールでの対応やZoomでの質問会の開催など）、6) 当センター教員による質問対応および個別の学修相談などきめ細かな学修フォローアップを行ったこと、など。

次に、今春卒業した本学6年制12期生の評定平均と国家試験合格との関係を調べました。表2に示すように、これまでと同様、評定平均と卒業・合格率との間に明確な相関が見てとれます。即ち、評定平均が下がるにつ

れて、卒業・合格率が低下傾向にあります。このことは、1年次からの学修の積み重ねが如何に大切かを物語っています。単位を修得するためだけの勉強ではなく、真摯に学問に向き合い、普段から将来の医療従事者としての自覚や国家試験等を見据えた高い学修意識を持つことが肝要と考えます。

表2. 評定平均と国家試験の合否との関係

評定平均 ※1	学生数	卒業者	合格者	不合格者	卒業・合格率
95点以上	0	0	0	0	—
90点以上95点未満	8	8	8	0	100.0%
85点以上90点未満	32	32	31	1	96.9%
80点以上85点未満	84	84	83	1	98.8%
75点以上80点未満 ※2	89	86	79	7	88.8%
70点以上75点未満	98	88	77	11	78.6%
65点以上70点未満 ※3	59	41	31	10	52.5%
65点未満	3	2	1	1	33.3%

※1 専門必修講義科目の平均点

※2 休学者1名を除く

※3 休学者1名を除く

本学6年制12期生に対しても、これまでと同様に今後の教育および国家試験対策に活用する目的で、国家試験の解答データ入力への協力を要請したところ、341名の受験者中285名が入力してくれました（入力率83.6%、前回：88.9%）。表3に示すように、本学総合正答率は78.2%（厚労省通知）と前年度（73.8%）に比べて4.4ポイント上昇したことから、難易度は前回に比べてやや易しくなったと言えます。また、新卒について問題区分ごとの正答率を全国平均と比較すると、何れも上回っています（必須問題：+1.8ポイント；薬学理論問題：+3.7ポイント；薬学実践問題：+1.3ポイント；総合：+2.2ポイント）。特に、応用力や思考力を問う薬学理論問題で3.7ポイント上回っていることは評価すべき点です。

表3. 科目別・問題区分別平均正答率

問題区分	必 須 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	15	10	15	15	15	10	10	90
最低点	3	5	9	7	4	5	2	60
平均点	10.3	9.1	13.9	13.6	12.3	8.6	9.4	77.2
最高点	15	10	15	15	15	10	10	90
平均正答率	68.9%	91.0%	92.8%	90.6%	81.8%	86.3%	93.7%	85.8%
学内全体（新卒）								85.3%
全国（新卒）								83.5%

問題区分	薬 学 理 論 問 題							
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計
問題数	30	20	15	15	15	10		105
最低点	7	8	5	3	3	4		48
平均点	18.5	16.6	12.6	9.5	11.9	8.1		77.2
最高点	30	20	15	15	15	10		105
平均正答率	61.6%	83.1%	84.3%	63.2%	79.6%	81.1%		73.6%
学内全体（新卒）								72.6%
全国（新卒）								68.9%

問題区分	薬 学 実 践 問 題								
科目	物理・化学・生物	衛生	薬理	薬剤	病態・薬物治療	法規・制度・倫理	実務	合計	総合計
問題数	15	10	10	10	10	10	85	150	345
最低点	3	1	5	2	3	5	47	86	201
平均点	9.2	8.3	8.8	8.0	7.6	8.8	66.8	117.5	276.1
最高点	14	10	10	10	10	10	82	146	326
平均正答率	61.3%	83.1%	87.7%	80.1%	76.4%	87.8%	78.6%	78.3%	80.0%
学内全体（新卒）								77.8%	78.2%
全国（新卒）								76.5%	76.0%

注：青色および赤色のデータは：厚労省通知のデータ

第108回薬剤師国家試験における正答率の高い問題および低い問題の得点率と総得点率の相関を示します。正答率60%以上の問題（255題）と総得点率には強い相関が見られました（図1）。一方、正答率60%未満の問題（90題）と総得点率との相関は、正答率60%以上の問題との相関に比べると低いものでありました（図2）。つまり、国家試験の合格基準をクリアするには、皆が正解する問題をしっかりと得点に結びつけることが大事です。そのためには、6年次に実施される確認試験および模擬試験の結果を見て、全体の正答率が高い問題で自分が間違った問題については、必ず見直し定着させるよう努めることが重要です。

図1

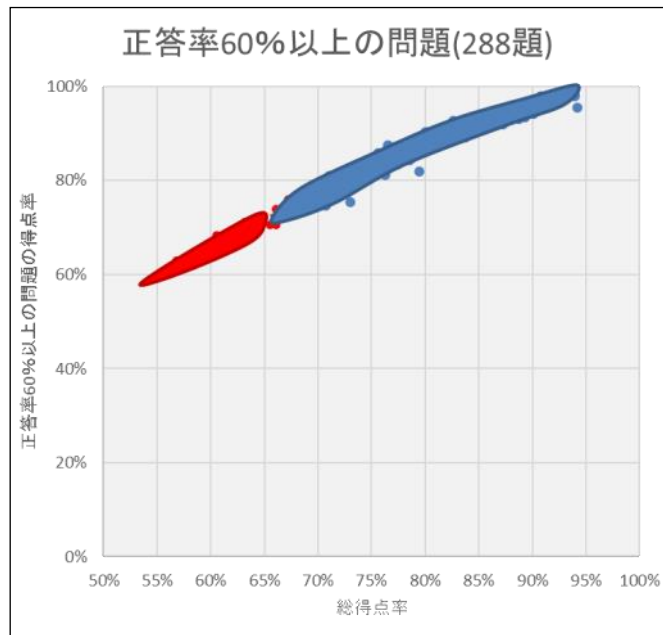
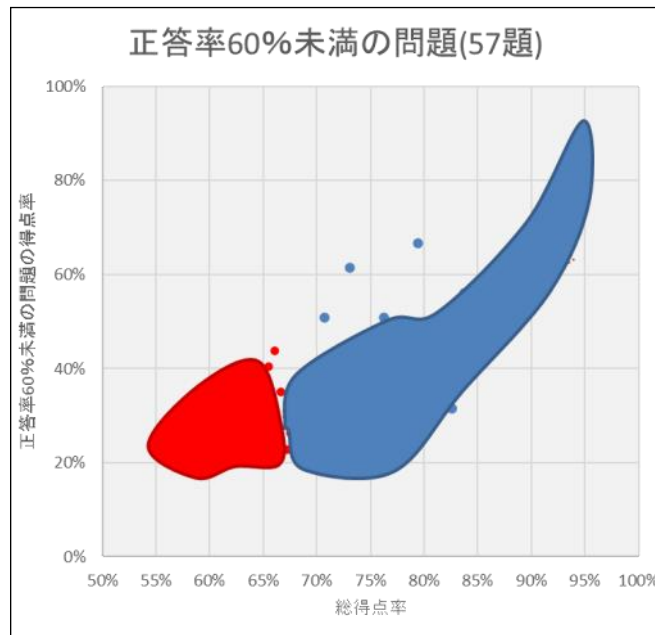


図2



青：国試合格者；赤：国試不合格者

<第109回薬剤師国家試験に向けて>

第108回国家試験はやや易化しましたが、付け焼刃的な学修では対応できなくなっています。つまり、低学年次からの学修の積み重ねが重要であり、6年次になって焦って慌てて勉強しても間に合わない可能性が高いということです。1年次から国試対策をなささい！と言っているわけではありません。1～3年次生の皆さんは、日々の勉強をしっかりとすればよいのです。ただし、理解を伴わない丸暗記学修はお勧めしません。4年次生以上の皆さんは、厚労省のHPにアップされている第108回国家試験問題を確認し、どのような内容が問われているかを知ることが大切でしょう。まずは、苦手あるいは弱点と考えられる科目から始めて苦手意識を払拭し、逆に武器（強み）に変えられるよう努力しましょう。物理・化学・生物は他の科目の基礎であり、定着するには時間がかかるため、反復学修が重要となります。薬理および薬剤は国家試験において、合格者と不合格者との正答率の差が大きい科目であることが明らかとなっています。国家試験では内容が偏ることなく科目の垣根を越えて出題されるので、重要項目を中心に理解しながら、また他の科目と関連付けて勉強することも大切です。今、成績がよくない、あるいは先行きが不安であると感じている学生は、これまでの勉強方法に問題点はないか検証し、早急に実効性のある勉強法の確立を目指しましょう。分からないことを放置するのではなく、ちょっとしたことにも疑問を持ち、直ぐに調べ、解決するように努めることも大切ですし、友達と一緒に勉強し、教え合うことも効果的な学修方法です。各教科の内容に関する質問については『オフィスアワー』を、学修に関する悩み相談については薬学教育研究センターの『学びコンシェルジュ』を是非利用して下さい。国家資格取得は、あくまでも通過点にすぎません。皆さんそれぞれの目標を達成するためには平素の努力の積み重ねと早めの行動が大切です。

【寄稿】国立台湾大学における

Research Day and International Conferenceへの参加報告

Report

国際交流センター長

一般教育分野 教授 佐藤 毅

国立台湾大学 (National Taiwan University: NTU、台北市、台湾) 薬学部で開催された Research Day and International Conference (5月11・12日)に参加しました。NTUは本学の国際学術交流協定締結校であり、これまでも教育、研究に関して、互いに協力し合ってきました。本学からは赤路健一学長、高山健太郎准教授(衛生化学分野)、辻本雅之講師(臨床薬学分野)そして、私の4名がお招きにあずかりました。この催しは2018年に始まり、今年で6回目の開催でした。コロナ禍においてはオンデマンド型の開催となりましたが、今年2023年の開催では、全てが対面型となり、「本来の姿」を取り戻したとのことでした。

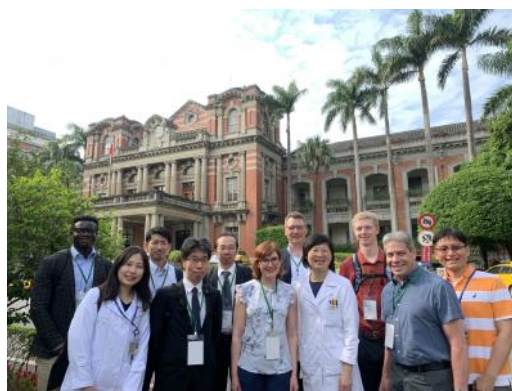
今年の Research Day and International Conferenceでは、米国 Ohio State University、University of Michigan、そして、本学から10名の教職員研究者が招待されました。初日の Research Dayは大学院生による口頭発表でしたが、ここでは大きなショックを受けることになりました。



大学院生による
ポスター発表の様子

た。ここでも大学院生たちの一生懸命さが伝わり、一教員として、非常に嬉しく、頼もしくも感じました。その後、大学院生との交流会がありました。各ゲストが7〜8人の学生と交流するという形式でした。台湾の

学生は、日本の学生とよく似ており、我々のような教員の前では中々話すことができません。「今日は、英語で話すのだから、欧米スタイルでいこう。私のこともfirst nameまたはnicknameで呼んでください。」という一言から始め、話してもらうのに苦労しましたが、彼らがリラックスできた後は、趣味、研究、今後のキャリアなどについて話し合うことができ、愉快的時間を持つことができました。



Conference参加者と一緒に

2日目の International Conferenceは4大学の研究者による講演会であり、基礎から臨床まで期待通りの高レベルな発表、議論がありました。私、個人的にも2つの共同研究の可能性を見出すことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

一教職員、研究者、そして本学国際交流センター長としてもですが、大学における国際交流で最も大切なことは人としての信頼関係、friendshipを築き上げることだと思っています。その上に共同研究があり、国も異なる他大学の教員が教育に協力する体制が構築されていくと考えています。NTUはこの催しを通して、この点においては大きな成功を収めていると感じました。

最後にNTU薬学研究科長Li-Juan Shen先生をはじめ、本催しに関わった方々のホスピタリティに感謝申し上げます。



Research Day and International Conferenceに参加した皆さん

2023年度京都薬科大学給付型奨学金表彰式を執り行いました

Report

学生課

本学では、優秀な人材の育成、成績向上並びに活力の醸成を図ることを目的に、給付型奨学金制度を設けております。今年度は、合計82名（大学院入試成績優秀者3名、新入生特待生2名、学部成績優秀者75名、研究・課外活動優秀者2名）の奨学生が選出され、奨学金が給付されました。表彰式は、7月5日（水）に執り行われ、木曾理事長から奨学生の心構えについての訓示と、表彰状が授与されました。

学生の修学支援のためのこれらの奨学金は、卒業生（京薬会会員）、法人役員、職員、ご父母（教育後援会会員）の皆様からのご寄付により成り立っております。

皆様からの多大なるご協力に本誌面をお借りして厚く御礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



表彰式の様子



木曾理事長の訓示

薬用植物園の活動報告 Vol. 1

Report

薬用植物園

薬用植物「トウキ」の栽培方法を「城陽の緑と文化財を守る会」にご紹介しました

トウキはセリ科の薬用植物で、江戸時代には奈良県や京都府城陽市の周辺で栽培された記録が残されています。奈良県では現在も栽培が行われていますが、城陽市では現在トウキの栽培は行われていません。

「城陽の緑と文化財を守る会」では、有志の方々によってトウキの栽培を復活させる試みがなされていますが、なかなか栽培が上手くいかないということでご相談を頂き、トウキの栽培方法についてご紹介しました。

医薬品の原料となる薬用植物から良質な生薬を得るためには、特殊な栽培方法が必要です。本学の薬用植物園では、薬用植物の栽培展示を通じて伝統的な栽培技術の習得、啓発に努めています。

【植物紹介】

* トウキ (*Angelica acutiloba* Kitagawa) セリ科 (*Umbeliferae*)

根を生薬「当帰(トウキ)」として、当帰芍薬散をはじめとした婦人の諸病を治す漢方処方に配合される。現在は奈良県周辺で古くから栽培されていた大深当帰(大和当帰)と、北海道で育成された北海当帰の2種が栽培される。

【活動状況(2023年5月1日～7月31日)】

- ・ 学内見学 基礎演習 本園2件/御陵園1件
- 早期体験学習 御陵園1件
- ・ 学外見学 本園1件/御陵園1件
- ・ 漢方薬生薬認定薬剤師 研修会 本園1件

植物園のinstagramはこちらからご覧ください。



トウキの栽培について説明している様子

(写真提供：城陽の緑と文化財を守る会 中東育代様)



トウキの花

7月30日（日）本学A22実習室にて、市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク」と共に、理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2023 イン山科」を開催しました。地域の小学生に理科の楽しさを知ってもらいたいと始まった本講座は今年で12回目を迎え、山科区の小学生にとって夏の恒例行事になっています。例年、午前と午後の二部制で実施していた本講座ですが、コロナ禍の2021年度および2022年度は午後のみで開催とし、感染拡大防止のため定員を半分に以下に制限して実施しました。地域の方々から「より多くの子ども達を参加させてあげたい」という声もあり、今年度は感染防止対策を取りつつ、コロナ禍前と同様に午前と午後の二部制に戻し、定員を増やしての開催となりました。

今年のテーマは「ヨウ素デンプン反応」です。当日は学生実習支援センター教員と企画・広報課職員のほか、地域ボランティアスタッフのサポートのもと、地域の小学生70名が2つの実験を通じて身近な科学の不思議を体験しました。

1つ目の実験「デンプンをうがい薬で調べよう」では、ヨウ素を含むうがい薬を使い、ポップコーンなど身近なお菓子の中にデンプンが含まれているかどうかを調べました。また、もち米とうるち米をつぶした液にうがい薬を加え、デンプンの構造の違いによる反応液の色の違いを観察し、それぞれのお米の特徴をデンプン構造と紐づけて学んでもらいました。「他の食べ物でもやってみよう」とさらに興味を持ってくれる子どもたちもあり、実験結果や自分の気づきを熱心に記録している姿が印象的でした。



どんな色になるかな？

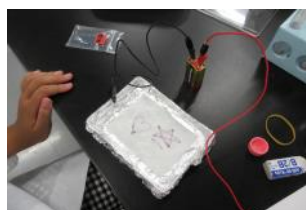


結果をまとめてみよう

2つ目の実験「電気力で紙に字を書いてみよう」では、ヨウ化カリウム水溶液の電気分解を利用し、デンプン水溶液を浸み込ませた紙に自由に文字を書いたり、絵を描いてもらいました。「色が変わった！」「字が書けた！」など子どもたちから感嘆の声が聞こえ、時間いっぱいまで夢中になって取り組んでいました。



自由に字や絵を描いて
楽しめました



キレイに描けたよ！

実施後のアンケートでは「楽しかった。新しいことやおもしろいことを知れた。理科が好きになった。」「理科が苦手だったけど、この時間の中で理科や実験の楽しさが分かったのでよかったです。」などの感想が寄せられ、参加した子どもたちに実験を通して、身近な科学、またその楽しさに触れてもらえたことをとても嬉しく思います。また、「すごく楽しかったのでまた参加したいし、家でもやりたいです。」「実験など全て楽しかったです。このことを自由研究に使ってみたいです。」など家でも試してみたいという声も多くあり、理科への興味喚起およびその継続のきっかけにもなったと感じています。



色の变化に興味津々です

本講座の実施にあたり、22名の地域ボランティアスタッフの方々にご協力いただき、各実験台にて子どもたちの実験をきめ細やかに指導・支援していただきました。この場を借りて市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク」実行委員会の皆様に深く感謝申し上げます。



地域ボランティアスタッフの
サポートは欠かせません

今後も地域に根差した大学の役割として、近隣学区の小学生の理科教育の一助となれるよう、市民組織と共にこの活動を継続していきたいと考えています。なお、本講座は独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」の助成を受けて実施しました。

ぬかた さやこ
2年次生 額田 紗子

私は0歳から水泳を始め、小学2年生頃からアーティスティックスイミング(以下ASと略す)を約13年間続けています。ASという言葉は皆さん聞き慣れていないと思います。2017年にシンクロナイズドスイミングから名前が変更され、同調性だけでなく、表現力や芸術性が求められるようになりました。2023年度からは

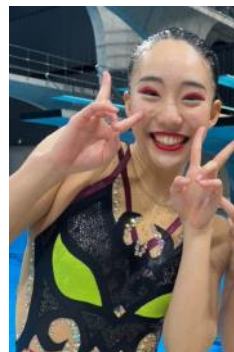


ルールが大幅に変わり、行う技1つ1つに点数がつけられ、正確に行わなければベースマーク(0点)になってしまうというとてもスリル満点な競技へと変わりました。従来では優勝国などが予想出来たのですが、新しいルールになってからは最後まで何が起きるか分からない、ハラハラドキドキするスポーツへと変わりました。失敗が許されない中、芸術性を見せなければならないというとても奥深い競技へと変わったのです。

私は井村ASクラブに所属しており、ほとんど毎日水中練習、トレーニング、ダンスと練習に励んでいます。ASは水の中に潜っている時間が長いので、息を止める我慢強さはもちろんのこと、体を自由自在に動かし表現しなければならぬため、開脚などといった柔軟性、プールを行き来しながら演技を行うため泳ぎの速さ、水上により高く上がり、力強い演技を行うための筋力、3分越えの演技を泳ぎきる体力、そして、曲の選曲や振り付けといった感性など、たくさん身につけなければならないことがあります。また、チーム競技では周りと合わせたり、人の配置がたくさん変わるため決められた移動を正確に行ったり、万が一、練習通りに上手くいかず、失敗したとしても臨機応変に対応をしなければなりません。一度にこれだけ多くのことを考えながら泳ぐのは大変なため、体に染み込ませる必要があります。たった3分間程度の演技を何十時間とかけ、自分たちの目指すものまで修正を重ね、試合に挑みます。私は過去に勉強との両立や毎日の練習が辛く、辞めたいと思ったことがありました。今となって考えると、自分は目の前の辛さだけを見ており、その先のなりたい自分の理想像を見失っていました。誰だって辛くてやめたいくなる時期はあると思います。しかし、ただ闇雲に目の前のことをこなすだけではかえって自分のためにはなりません。一度立ち止まり、目指しているゴールは何なのか改めて再確認する必要があります。

今まで日本選手権を初めとした様々な全国大会や地方大会でメダルを獲得してきました。その中でも嬉しかったのは高校2年3年と世界ジュニアの日本代表に選

ばれたことです。AS人生の目標の1つであった日本代表となり、海外の試合に出られることとなりました。しかし、同時期に新型コロナウイルス感染症が流行り始め、2年連続試合が延期となってしまいました。試合に出られない悔しさでしばらくは立ち直れませんでした。しかし、代表選考ではお互い敵同士であった仲間とともに1つのチームとして助け合い、お互い良いところは真似をするなど、普段クラブチームでは経験できないことをたくさん学ぶことができました。コロナ禍のことがあったからこそ今の強い自分がいると思います。



世界ジュニアが解散し、8月、10月と大きな試合を乗り越えてからは、私は本格的に受験勉強に取り掛かりました。ASも受験も両方、諦めたくないと思い、練習に行きながらも受験勉強に力をつくしました。周りの人に比べ出遅れている自分に焦りを感じたり、受験直前まで点数が足りない科目があったりと本当に合格できるのかとても不安になりました。コツコツと合間を縫って勉強してきたこと、試験は緊張するけど何度も大きい舞台で戦ってきたことなどを思い浮かべ、自信をもって試験に挑みました。

現在私はASの日本代表になるという目標と薬剤師として自分にしかできないことは何か日々探しながら勉学に励んでいます。皆さんの中にも勉強しながらスポーツ、趣味など他のことをすると勉強が疎かになってしまうのではないかと悩んでいる方がいらっしゃるかもしれません。私も最初は色んな人に大丈夫?志望校変えた方が良いじゃない?などと言われ悩んだ時期もありました。しかし、いざ取り組んでみると効率の良い時間の使い方を意識したり、より集中して物事に取り組むことができたり、逆に良い方向へと向かうことが出来ました。

私がここまで続けられたのは両親の支えや、先生方のご指導、ASができる環境を作ってくださる方々、そして、一緒に泳いでくれる仲間がいたからです。感謝の気持ちを忘れず今しかできないことを精一杯楽しみながら続けられたらと思っています。



KPU^{NEWS}では、学生・職員の趣味や活動などを「十人十色」と題して幅広く紹介しています。
学生・職員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

1年後のわたし

薬化学分野 4年次生 おざわ さな 小澤 彩奈

新しいことを始めることにはちょっとの勇氣が必要です。しかし、最初から完璧を求めるのではなく、とりあえず始めてみよう、と考えることができれば、「挑戦」というハードルを自分で下げることができるのではないのでしょうか。

私は大学生1年生のときに焼き芋にはまりました。それ以来、スーパーで買ったさつまいもを家のオーブンで焼き、毎日食べています。1日3食焼き芋の日もあります(笑)

芋の品種や、焼く時の温度や時間によって焼き芋の味は変わり、また買って来た芋を1か月くらい焼かずにおいておくと、熟成されてとても甘くなります。少しの手間や工夫で仕上がりが変わることに気が付いてから、さらにどうやったらおいしく焼けるかを研究するようになりました。

最初は自分で食べて満足していましたが、もっとこのおいしさをたくさんの人に知ってもらいたい！と思うようになりました。私はカレー屋さんでアルバイトをしているのですが、店長にそのことを話すと、「お店でだしたらいいやん！」と言ってくださり、そのことがきっかけで、カレー屋さんの間借り店としてさつまいもを使ったスイーツのお店『ポテカフェ』をオープンすることになりました。私はあまり新しいことに自分から挑戦するという経験をしたことがなく、今までは友達のあとを付いていくことが多かったのですが、自分のお店をもつということは、間借りとはいえ、私にとってとても大きな挑戦でした。

オープンすることが決まってから、「どうしたらお客さんが来てくれるのか」「どんなスイーツをつくったら食べたいと思ってもらえるか」など考えることも多く、新しいことを始めることに対しての大きな不安がありました。色々考えて悩んでいる私に、店長は「とりあえずやってみたら！始めてみたらわかることもあるよ」と教えてくださいました。私は1つの悩み事があると、その他のことに手が付かなくなってしまう性格だったので、その一言にとても救われました。最初から完璧を求めなくても、そのときのベストを尽

して、良くなるようにどんどん変えていけばいいのではないかと考えられるようになりました。

しかし、オープンした後も課題は山積みでした。急にオープンが決まり周知も十分にできていなかったため、お客さんが少なくてたくさん売れ残ってしまう日もありました。そんな日は、頑張っても作っても食べてもらえないことが悲しくて心が折れそうになりました。

しかし、とりあえずもう少し続けていたら何か変わるかもしれないと考えて、もう少しだけ頑張ることにしました。そうして続けていると、メニューや営業する時間帯に改善できる点があることに気が付きしました。当初は昼間のみの営業にしていたのですが、平日の夜に営業時間を変更することで、お仕事や学校帰りに立ち寄ってもらいやすくするなど工夫をしました。

当初はカレー屋さんにもともと来ていた常連さんが多かったのですが、今は少しずつですが新しいお客さんも来て下さっています。このとき、考えているだけではわからないことが多いことを改めて実感しました。

スイーツのメニューを考えるとところから、レシピを考えるところまで全て自分で行っているため、人に食べてもらうという緊張と責任は常にありますが、その分美味しかったと言ってもらえたときの喜びや、お客さんとのつながりは深く、やりがいを感じています。

1年前の私は、お店でスイーツを作っているなんて思ってもいなかったのですが、人生何がおこるかかわからないなあと思います。今と1年後の自分がどのように変化しているか楽しみです。私が挑戦するきっかけをくれた店長や支えてくださる周りの方々にはとても感謝しています。感謝を忘れず、これからもたくさんの方に挑戦していきたいです。



お店で出している
焼き芋プリン



「グーグー藤カレー」
のカレー



スイートポテト

- 「現在申込受付中」および「今後申込受付を開始する予定」の研修会をご紹介します。
皆様のご参加をお待ちしています。

◇「eラーニング講座」 ※申込受付中です ※本学の学生・職員は無料で受講できます

2023年度「卒後教育講座」および「漢方講座」を新規コンテンツとし、2022年度「卒後教育講座」2022年度「漢方講座」も含めてWeb配信します。配信期間中は何度でも視聴できます。

- *配信期間：2023年6月1日（木）～2024年2月29日（木）
*参加費：15,500円（受講料15,000円、事務手数料500円） ※PDF資料ダウンロード可
*申込受付期間：2023年4月1日（土）～2024年2月22日（木）
*認定単位：1単位／1コンテンツ 京都薬科大学認定単位G24

☆1コンテンツごとに視聴後に確認テストを実施し、5問中3問以上正答で1単位を認定します。テストは複数回受験できます。

☆認定単位シールは、1ヶ月分をまとめて送付します。

☆過去にeラーニング講座や卒後教育講座・漢方講座を受講して既に認定単位を取得しているコンテンツは、視聴は可能ですが単位の認定はありません。

【新規】2023配信コンテンツ ※新規コンテンツは収録後、配信追加していきます。			
2023年度卒後教育講座	1	脳卒中診療における薬物療法	11【基礎】セルフメディケーション領域の漢方—めまい—
	2	オンライン服薬指導とファーマシューティカルコミュニケーション	12【薬物等】健康管理を担う薬剤師のための漢方講座
	3	心不全患者の包括的管理	13【臨床】眼科領域における漢方の役割 ～緑内障・ドライアイ・眼底出血を中心に～
	4	臨床推論の考え方、活かし方	14【基礎】セルフメディケーション領域の漢方—排尿異常—
	5	急変対応～あなたが職場で倒れたら～確実な急変対応を共有しよう！	15【薬物等】認知機能の維持・改善に有効な生薬・漢方薬について
	6	脳死患者の臓器提供を見据えた全身管理	16【臨床】効かせる漢方（女性のQOLを高めるために）（2）
	7	2型糖尿病における薬物療法	17【基礎】セルフメディケーション領域の漢方 —胃腸障害①（食欲不振・胸焼け）—
	8	ビッグデータを活用した医療薬学研究	18【薬物等】生薬の選品と鑑別（4）
	9	医療用添付文書の活用 ～IFやRMP、審査報告書でしか分からないことは～	19【臨床】フレイル・サルコペニアと循環器領域の漢方
	10	医療DXと薬剤師の業務	20【基礎】セルフメディケーション領域の漢方 —胃腸障害②（胃痛・腹痛）—
2023年度漢方講座			21【薬物等】知っておきたい漢方配合生薬（その3）
			22【臨床】本音で語る！アトピー性皮膚炎治療における漢方の実力・臨床力・癒し力

2022配信コンテンツ			
2022年度卒後教育講座	23	皮膚の痒みの臨床	37【基礎】セルフメディケーション領域の漢方—便秘—
	24	痒みの発生メカニズムと薬物治療	38【薬物】薬局・薬剤師の為の分かり易い漢方 『山本巖流一貫堂漢方医学』（1）感冒：風邪とは？（2）頭痛・目眩
	25	認知症患者の診療と地域生活の支援	39【臨床】心療内科領域での漢方治療—柴胡剤を中心に—
	26	出生前検査とダウン症候群	40【基礎】セルフメディケーション領域の漢方—下痢—
	27	ダウン症治療法確立を目指したモデルマウスを用いた基礎研究	41【薬物】「漢方薬・生薬に関する最近の話題」
	28	地域連携における薬剤師の役割	42【臨床】効かせる漢方（女性のQOLを高めるために）
	29	亜鉛欠乏と腸疾患	43【基礎】セルフメディケーション領域の漢方—むくみ—
	30	亜鉛の働きと亜鉛欠乏による諸相	44【薬物】知っておきたい漢方配合生薬（その2）
	31	知っておきたい！高齢者の口腔と「食べる力」の変化 ～薬剤師としてのアプローチ～	45【臨床】漢方の病理学 気血水の考え方2022
	32	【臨床】腎臓内科領域における漢方の役割	46【基礎】セルフメディケーション領域の漢方—冷え—
京都漢方研究会	33	【特別講演】難治性水滞関連疾患に対する山本巖医学の応用 ～明日から役立つ利水剤の先進医学的な使い方について	47【薬物】生薬の選品と鑑別（3）
	34	【特別講演】日本漢方の独自性	48【臨床】漢方薬でサポートするこれからの循環器診療
	35	【臨床】漢方薬局での店頭経験～生津薬を用いた症例を中心に～	
	36	【特別講演】漢方の改革者 細野史郎先生を語る	

◇「実務支援セミナー」 注射薬の無菌混合調～がん化学療法と在宅医療～

実際にクリーンベンチ、医薬品等を使用した実習です。注射薬調製に必要な基本的知識を学び、クリーンベンチや安全キャビネット内で注射薬の取扱い、無菌操作、輸液・TPNの混合調製手技等を実習します。さらにがん化学療法の実際、注射薬の安全管理上の注意や投薬後フォローの重要性など一歩踏み込んで考えます。地域連携薬局を目指す薬局・薬剤師は、この機会を是非ご活用ください。

同日に2回開催しますのでご都合のよい時間帯をお選びください。なお、導入講義は、事前にeラーニングで受講していただきます。

＊開催日時：2024年2月25日（日） ＜午前の部＞9:30～13:00 ＜午後の部＞13:30～17:00

＊開催場所：京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター

＊概要

午前の部 9:30-13:00	午後の部 13:30-17:00	プログラム	
事前配信(eラーニング)		導入講義	・注射薬無菌混合調製に必要な基本的知識 ・外来化学療法の実際
9:30～ 12:00	13:30～ 16:00	実技実習	・衛生的手洗い(ラビング法、スクラブ法)・ガウン、手袋、帽子、マスクの装着 ・注射薬混合調製(アンプル、バイアルの取扱い、薬液採取、陰圧操作) ・TPNバッグ・ガウン脱衣
12:00～ 13:00	16:00～ 17:00	情報共有	・事前動画や実技実習に対する質疑応答 ・自施設における注射調剤の問題点や課題の共有

＊定員：午前の部・午後の部 各20名（薬剤師限定）

＊参加費：10,500円（受講料10,000円、事務手数料500円）

＊申込受付期間：2023年12月6日（水）～2024年2月12日（月）

＊認定単位：3単位（事前eラーニング1単位含） 京都薬科大学認定単位G24

■申込方法

生涯教育センターホームページよりお申込みください。 (<https://skc.kyoto-phu.ac.jp/>)



生涯教育センター
トップページ



eラーニング講座
申込ページ



実務支援セミナー
申込ページ

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

＊E-mail：s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

＊TEL：075-595-4677（平日10:00～16:00）

＊FAX：075-595-4792



生涯教育センター
Facebook



生涯教育センター
Twitter



再任

創薬科学系薬化学分野 助教 浜田 翔平
(任期：2023. 07. 01～2028. 06. 30)

退職

分析薬科学系代謝分析学分野 准教授 木村 寛之
事務局学生課 主事 辻 美帆
(以上2023. 06. 30付)

昇任

事務局企画・広報課 課長補佐 谷垣 朱美
(前 事務局企画・広報課係長)
事務局会計課 係長 夜船 宏哉
(前 事務局会計課主査)
事務局学生課 主査 飯塚 祥子
(前 事務局学生課主事)
事務局施設課 主査 柴田 憲利
(前 事務局施設課主事)
事務局実務・生涯教育課 主査 杉本 明子
(前 事務局実務・生涯教育課主事)
事務局教務課 主事 永島真由実
(前 事務局教務課事務員)
(以上2023. 07. 01付)



図書館

高校の未履修科目をこれから学習したい方やあらためて基礎から復習したい方に向けて、“物理” “生物” “化学” “有機化学” “数学” の5つのテーマに分けた関連図書を「基礎科目参考書」としてまとめて展示しているコーナーが図書館にあることをご存じでしょうか？2022年に設置したばかりの新しいコーナーですが、昨年度の貸出冊数は85冊、今年度も7月末時点で52冊と1年次生を中心に徐々に利用が広がっています。以前からご利用いただいていた方はもちろん、初耳の方やまったく知らなかった方にも、どのような図書が並んでいるか？をわかりやすく貸出ランキング形式でご紹介します。展示図書も少しずつ増やしていますので、気になる本がありましたら、ぜひ、図書館へお立ち寄りください。

順位	タイトル	出版社
1	有機化学1000本ノック 反応機構編	化学同人
2	生理学・生化学につながるていねいな生物学	羊土社
3	大学1・2年生のためのすぐわかる生物 改訂版	東京図書
	大学1年生のなっとく!生物学	講談社
4	有機化学の基本：電子のやりとりから反応を理解する	化学同人
	好きになる生理学：からだについての身近な疑問 第2版	講談社
	好きになる生化学：生体内で進み続ける化学反応	講談社
	わかりやすい薬学系の物理学入門	講談社
	微分積分の基礎：大学教養（チャート式シリーズ）	数研出版
	忘れてしまった高校の数学を復習する本 カラー改訂版	KADOKAWA

本学図書館の開館日程についてはホームページをご覧ください。
<https://www.kyoto-phu.ac.jp/library/>



京都橘大学と本学が共同開催する市民向けの公開講座を、今年も開催しています。7/29、9/9、10/14、11/11の全4回*で、各回に設定された共通のテーマについて、京都橘大学の教員と本学の教員が一般市民向けに講演します。対面とオンラインを同時開催しますので、受講希望者は特設サイトからお申込みください。多数のご参加お待ちしております。

※7、9月開催分は終了しています。

■7月29日（土）すこやかに暮らすためのやくたちばなし【終了】

「運動ですこやかに良い人生をかさねる

～サクセスフル・エイジングと高齢者の心臓リハビリの取り組みから～」

京都薬科大学 健康科学分野 長澤吉則 准教授

「幸齢のすすめ～現代における幸福な老いとはなにか～」

京都橘大学 総合心理学部 総合心理学科 岸太一 准教授

■9月9日（土）こどもの学習に関するやくたちばなし【終了】

「科学は面白い！～子ども向け理科実験を通して伝えたいこと～」

京都薬科大学 学生実習支援センター 高尾郁子 助教

「どうして英語力と科学理解力が必要なのか？」

京都橘大学 国際英語学部 国際英語学科 樋口ゆかり 講師

■10月14日（土）いざという時に備えるためのやくたちばなし

「高齢者に対する予防救急

～家の中には危険がいっぱい！未然に防ぐためには…～」

京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 今西孝至 講師

「元気なシニアライフのために。フレイル予防を始めましょう」

京都橘大学 健康科学部 理学療法学科 白岩加代子 准教授

■11月11日（土）健康に生きるためのやくたちばなし

「生命や健康を司る金属元素の働き～健やかな人生を送るために～」

京都薬科大学 代謝分析学分野 安井裕之 教授

「薬が効かない感染症!?～今私たちにできること～」

京都橘大学 健康科学部 臨床検査学科 藤原麻有 講師

*開催時間 10:00～12:00（受付開始9:30～）

*開催場所 京都薬科大学・オンライン

*主 催 京都橘大学・京都薬科大学

*受講料 無料

*定 員 対面100名・オンライン100名

*対 象 一般市民・学生

*申込方法 下記URLまたはQRコードから申込フォームにアクセス

<https://tachibana-kyoyaku-gakumachi.tachibana-u.ac.jp/open/>

■問合せ先

京都薬科大学 事務局 実務・生涯教育課

*E-mail: s-center@mb.kyoto-phu.ac.jp

*TEL: 075-595-4677（平日10:00～16:00）

*FAX: 075-595-4792



「京のやくたちばなし」
特設サイト



7月29日開催時の様子



講演を行う本学の長澤准教授



■ こころのケガを抱える人への対応について ～TIC（トラウマインフォームドケア）のご紹介～

トラウマは心的外傷を意味する言葉ですが、すでに日常用語の一つとなっています。

深刻なトラウマは、大きな自然災害や事故等の物理的外傷の中で起きることもあります。昨今、社会で起きているニュースを見れば、SNS上の誹謗中傷や虐待、いじめ、性被害、ハラスメント等、対人関係上の問題において被害者側に深刻なトラウマが引き起こされ、メンタルヘルスの問題につながっていくような事案が多々起きています。深刻なトラウマがあると、慢性的な身体症状や認知、感情、行動における問題を抱えやすくなってしまいます。

また、ニュースになるような事柄でなかったとしても、私たちの日常生活の中には、そのような「加害と被害」と呼べるような関係性が少なからず生じられることがあります。一般的に予想される以上に、多くの人たちがトラウマというこころのケガを負い、それを抱えながら生きている現実があるとも言えるかもしれません。

トラウマインフォームドケアという言葉聞いたことがあるでしょうか。「トラウマ（こころのケガ）について十分な知識をもって支援すること」という意味の対人支援の在り方を示す言葉です。米国から広がり、日本でも少しずつ広がってきています。これは、狭義のトラウマ治療で用いられるような支援ではなく、すべての人を対象にしている点において、精神保健福祉分野はもとより、医療、教育、福祉等の各分野で有効な概念です。

トラウマインフォームドケア（以下TICと表記）は、広く社会に周知されることが望まれます。というのもトラウマの影響は、時に理解されにくいものであったり、見過ごされてしまいがちだったりするからです。身体の傷と違って、こころの傷は外からみただけではわかりません。そして、触られると痛い傷を、他人に見せたり触らせたりすることは容易にできることではないですし、たとえ古傷であったとしても、何かのきっかけで、再び痛み始めてしまうこともあります。

今関わっている人、これから関わる人が、実はトラウマを抱えて苦しんでいる人かもしれません。TICでは、関わりに関する前提条件として「4つのR」を大切にしています。それは、①「理解する」（realize）：トラウマがこころ、からだ、行動にどのような影響を及ぼすの

かを理解する②「気づく」（recognize）：トラウマの知識を持つことで、行動にトラウマの症状が現れている事に気づく③「対応する」（respond）：トラウマを思い出させることがらを回避できるよう話し合ったり、適切な対処法を話し合ったりする④「再受傷させない」（resist re-traumatize）：方針や進め方をきめ、再トラウマ化を予防する手段を積極的にとる、という4Rです。また、TICを意識した周囲からの対応を通して、トラウマを抱えた本人が、「安全感を高め、対処行動を学び、こころの回復力やストレス耐性を高めていくこと」を目指します。

学生のみなさんには、ぜひこの概念を知っていただき、将来の医療実践においてはもちろんのこと、日常場面において人と接する際にもぜひ参考にしてもらいたいと思います。また、教職員のみなさんも、学生に接する際には、TICを知り、その考え方を参考にしながら関わっていただけると、学内のよりサポータティブな環境を整えていくことが可能になるのではないかと考えます。

TICにおいて、相手が抱えているトラウマやこころのケガ体験の内容を直接的に確認することが必要なわけではありません。例えば、声のかけ方ひとつでも安心感が与えられるものになっているのかどうか、こころのケガを抱える人の立場にたった発言ができていのかどうか等を少し立ち止まって確認したり、振り返っていったりすることで実践可能なものとなっていきます。

ここでは、詳しくお伝えできませんが、もし、TICについてもっと知りたいという方はぜひ下記のURLページに一度アクセスしてみてください。

・SAMHSA のトラウマ概念とトラウマインフォームドアプローチのための手引き

https://www.j-hits.org/_files/00127462/5samhsa.pdf

・トラウマインフォームドケアをもっと知るために-TICガイドダンス-

https://www.traumalens.jp/wp-content/uploads/2021/05/210331_tic_guidance.pdf

（臨床心理士 上野みな子）

■ 学生相談室のご案内

学生生活の中で問題や悩みに出くわしたとき、独りで抱え込むのではなく気軽に相談室をご利用ください。相談は臨床心理士・公認心理師の資格を持つカウンセラーが担当し、学業、進路、課外活動、将来、対人関係、性格、家族、心身の健康についてなど、事の大小に関わらず学生生活に関わる様々な悩みや問題について幅広い相談をお受けしています。学生ご本人だけでなく、保証人や教職員の方からの相談も可能です。

● 相談申込み・問合せ先

学生相談室 育心館 4階

相談を希望される方は下記申し込みフォームまたはメールにて予約をお願いいたします。相談は無料です。なお、対面相談のほかに、オンライン相談（電話またはTeamsの音声通話）も実施しております。相談方法につきましてはカウンセラーにご相談下さい。その他詳細はお問合せ下さい。

・開室（受付）時間：月～金 8:45～17:15

・メール：gakusou@mb.kyoto-phu.ac.jp

基礎研究の重要性と大学の役割

たにぐち けいこ

谷口 恵香



2020年 博士課程修了
(臨床腫瘍学分野)

京都府立医科大学
大学院医学系研究科
創薬医学 助教

私は現在、京都府立医科大学の大学院・創薬医学で基礎研究に携わっています。その名の通り“薬”を“創る”ことを目標に掲げる研究室で、その中でも特に抗がん剤の開発に取り組んでいます。教育機関であると同時に基礎研究を行う機関でもある「大学」という場を生かし、既存のどんな抗がん剤とも異なるまったく新しい作用機序の抗がん剤を開発したいと思い、実験に明け暮れる日々です。

古典的な細胞傷害性の抗がん剤から、がん細胞で特に活性化しているタンパク質をターゲットとしたいわゆる分子標的薬まで、すでに多くの抗がん剤が世に出ています。覚えなければならぬ薬の種類が多くて大変に思う学生さんも多いでしょう。なぜこれほど多種多様な抗がん剤があるかというと、がん細胞の遺伝子の違いなどによって患者さんごとに効果のある抗がん剤がまったく異なる

るので、一人でも多くの患者さんに効く薬を求めて過去に多くの研究者が努力してきたためです。現在、細胞を遺伝子レベルで解析し、その患者さんに合った治療法を選択するプレシジョン・メディシン（精密医療）の重要性が強調されていますが、実際には「分子Aを阻害したらがんに効く」ということが分かっても、肝心の分子Aの阻害剤がまだ開発されていない、ということがあります。「既存の抗がん剤とは異なる新しい作用機序の抗がん剤」を待っている患者さんは多いのです。

とはいえ、一つの薬を世に出すまでにかかる時間は9～17年と言われており、そのうちの2～3年が基礎研究の期間とされていますが、分子Aの生物学的な背景を調査する期間を考えれば2～3年では到底足りません。しかも、長い時間をかけて分子Aを詳しく調べたところで、それが薬の開発に繋がる確証はないのです。こういった基礎研究は薬の開発において必須ですが、その重要性は見落とされがちです。私は、この見落とされがちな基礎研究を、役に立たないと切り捨てずに遂行するのが大学という機関の役割の一つだと考えています。そしてそれを担うのが、かつてお世話になった本学の素晴らしい研究者の先生方、すでに研究室に配属され研究を行っている学生さん、そしてこれから研究室に配属され、研究を志す皆さんだと思います。

2024年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）

の入学選考結果

Report

入試課

2024年度大学院薬学研究科薬学専攻博士課程（夏季募集）の入学選考を8月22日（火）に実施し、8月28日（月）に合格発表を行いました。入学選考の結果は次の通りです。

○2024年度大学院薬学研究科
薬学専攻博士課程（夏季募集）

志願者数	9名
受験者数	9名
合格者数	9名

もりした まさき
薬剤学分野 助教 森下 将輝

『イシューからはじめよ
—知的生産の「シンプルな本質」』
安宅和人

英治出版 (2010年)

私が本書を読んだのはごく最近です。SNSで話題になっていたので「試しに読んでみるか」くらいの興味で読み始めたのを覚えています。著者は日本の大学で修士号を取得後、外資系コンサルティング会社に勤めた後、脳神経科学の研究で博士号を取得された方です。著者が「研究者」と「企業人」の2つの顔を持っており、大学での学術研究と、企業でのコンサルティング業務の両方に携わった経験をもとに、イシュー（問題）を見極めることの重要性を解説しています。

この本では冒頭で「知的生産性の高い人」の特徴を紹介し、続いて目の前の課題や仕事に対してどのような意識で取り組むと良いかを、具体的なエピソードを



交えて述べています。そして「与えられた問題にどう対処するのか」の前段階である、「真に重要な問題の見極め」から入ることが、生産性を高めるポイントであると書かれています。

特に私が印象に残っているのは、問題を見極める際の「悩む」と「考える」の違いについての解説でした。詳しくは本書を読んで頂きたいのですが、この解説が皆さんの役に立つ場面が薬学部6年間の中にもあるのではないかと思います。

例えば、皆さんが日々大学で受けている講義や実習は、初めからイシュー（問題）とその答えが設定されているケースが大半だと思います。対して、研究室配属後の研究活動では「何が答えなのか」最初にははっきりとしない場面もあると思います。この時に、イシュー（問題）を正しく見極めることで取り組む研究内容の意義が理解できるのではないかと私は思います。そして、社会ではそのような場面に直面することが多い、ということも本書から知ることが出来ます。

この他にも、「理解することの本質は何か」を著者の専門領域である脳神経科学の観点から解説されている点などは非常に興味深かったです。

学校の試験では解くべきイシュー（問題）が既に設定されていますが、卒業後は自らそれを見極めていく必要があります。在学中に本書を一度読まれてみてはいかがでしょうか。

かねさき あかね
事務局 調達検収室 金寄 茜

『星の子』
今村夏子著

朝日出版社 (2017年)

大切な人が信じていることを、わたしは理解できるだろうか。一緒に信じることが、できるだろうか――。¹

「多様性」。年齢、性別、人種、経験、諸々。近年では学校教育にSDGsが取り入れられるなど、さまざまな「ちがいを」尊重せんとする意識が高まっています。…本当に？

わたしは「多様性」を尊重します！言葉だけなら簡単です。そのなかには、自分に関係ないならいいけど、なんて人もいるかもしれません。でも、それは本当に「多様性」を尊重していると言えるのでしょうか。もし自分の大切な人が、家族が、親戚が、パートナーが、友人が、「ちがいが」だったら？変わらず隣にいて「信じる」ことができますか？

『星の子』は、生まれつき病弱な主人公・ちひろを救うため、大好きな両親が神秘的力を宿しているという水にすぎり、次第に「あやしい宗教」にのめり込ん



でいくお話です。困窮化する一家の生活、家出するお姉ちゃん、ちひろを救おうと手を差し伸べる親戚のおじさん、両親の儀式を見たイケメン先生の残酷な言葉。それでもちひろは両親が大好きで、大好きで、大好きで！だって両親と行く集会は楽しいし、仲のよい信者の友人もいる。でも信教の自由は、宗教1世にはあるけど2世にはないのも、また事実。苦しくて、切なくて、恥ずかしくて、ちひろのころは何度も何度も揺さぶられます。

…このお話は「ちがいが」を否定も肯定もしません。ひとつの家族の形をありのままに描いたお話です。だからこそ「多様性」とは、「信じる」とはいったい何なのか。自分のなかで追体験して、深く考えるきっかけとなるでしょう。「多様性」について考えてみたい人、尊重できていると思う人も、もし自分の身近で大切な人が「ちがいが」だったら？という視点で、ぜひ一度読んでほしいと思います。

「裏切られたとか期待していたとか言うけど、その人が裏切ったわけではなく、その人の見えなかった部分が見えただけ。見えなかった部分が見えたときに、それもその人なんだと受け止めることができる、揺るがない自分がいることが信じることと思いました。」²

¹今村夏子『星の子』朝日新聞出版、2017年より

²“芦田愛菜、”信じること”を熱弁 遠慮ぶりに永瀬正敏ら簡単「これ以上の答えはない」、Drama&Movie by ORICON NEWS、2020-09-03、<https://www.oricon.co.jp/news/2170996/full/>（参照2023-07-05）

■臨床薬学分野の田渕祐輔さんが京都府薬剤師会 病院診療所薬剤師部会において優秀学術論文賞を受賞しました

2023年5月20日（土）にオンライン開催された京都府薬剤師会 病院診療所薬剤師部会において、臨床薬学分野の田渕祐輔さんが優秀学術論文賞を受賞しました。

受賞：臨床薬学分野 博士課程4年次生 田渕 祐輔

演題：Incidence and risk factors of infusion reactions in patients with breast cancer administered trastuzumab plus pertuzumab-based regimen

演者：Yusuke Tabuchi, Masayuki Tsujimoto, Kosuke Yamamoto, Tadashi Kosaka, Koichi Sakaguchi, Naoya Dobuchi, Kohshi Nishiguchi, Keisuke Shikata



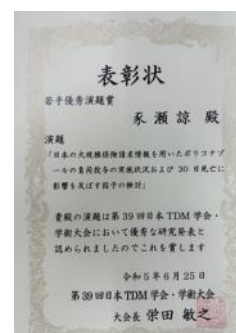
■臨床薬剤疫学分野の冨瀬諒助教が第39回日本TDM学会・学術大会において若手優秀演題賞を受賞しました

2023年6月24日（土）・25日（日）に開催された第39回日本TDM学会学術大会において、臨床薬剤疫学分野の冨瀬諒助教が若手優秀演題賞を受賞しました。

受賞：臨床薬剤疫学分野 助教 冨瀬 諒

演題：日本の大規模保険請求情報を用いたポリコナゾールの負荷投与の実施状況および30日死亡に影響を及ぼす因子の検討

演者：冨瀬 諒、後藤 良太、下木 美里、村木 優一



■臨床薬学分野の辻本雅之講師が第9回日本医薬品安全性学会学術大会において優秀演題賞を受賞しました

2023年7月16日（日）・17日（月・祝）に開催された第9回日本医薬品安全性学会学術大会にて、臨床薬学分野の辻本雅之講師が、福井大学病院薬剤部との共同研究により、優秀演題賞を受賞しました。

受賞：臨床薬学分野 講師 辻本 雅之

演題：ヒトリコンビナントUGT1A1によるエトポシド代謝に及ぼす種々薬物の影響

演者：辻本 雅之、根来 寛、辰己 晴菜、松尾 憲治、松本 優花、藤岡 栞、前田 明日香、西口 工司



■臨床薬剤疫学分野の後藤良太さんがMRSAフォーラム2023において優秀演題賞を受賞しました

2023年7月15日（土）に開催されたMRSAフォーラム2023において、臨床薬剤疫学分野の後藤良太さんが優秀演題賞を受賞しました。

受賞：臨床薬剤疫学分野 博士課程3年次生 後藤 良太

演題：大規模保険請求情報を用いたバンコマイシンの負荷投与における経年的な実施状況および有効性に与える影響の評価

演者：後藤 良太、冨瀬 諒、沢田 佳祐、村木 優一



薬品分析学分野 武上教授が、研究室と1年次科目「基礎演習」の合同イベントの一環として、外部の講師を招き、薬学生向けの講演会を開催した記事が薬事日報（2023年5月31日）に掲載されました。

木曽新理事長の就任について、薬事日報（2023年6月7日）に掲載されました。

22

■ 本学の履修証明プログラム「Lehmannプログラム」について、薬事日報に掲載されました

本学の履修証明プログラム「Lehmannプログラム」について、薬事日報（2023年7月14日）に掲載されました。



■ 本学の教員が高校生対象に行った模擬授業について、Webサイト「読売新聞オンライン」に掲載されました

本学の教員が薬学部に関心を持つ高校生対象に行った模擬授業について、Webサイト「読売新聞オンライン」（2023年7月21日）に掲載されました。

<https://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/support/information/C0038411/20230719-0YT8T50031/>



■ 地域の小学生を対象とした理科実験講座「身近な夏の不思議体験2023イン山科」について、京都新聞に掲載されました

地域の小学生を対象とした理科実験講座「身近な夏の不思議体験2023イン山科」について、京都新聞（2023年7月31日）に掲載されました。



無断複製転写禁止

掲載記事については
本学公式Webサイトよりご覧ください。

<https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/paragraph/>



下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

- * 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。
- * 敬称略、芳名のみ掲載しております。
- * 100万円以上を頂いた方は、愛学館エントランス『京都薬科大学 高額寄附者顕彰銘板』にも掲載させていただきます。

2023年6月～2023年8月にご寄附をお寄せいただいた方々

< 卒業生・同期会等（五十音順） >

蘆田 康子	野儀優比子
東 富雄	波多野和男
木瀬千加子	S58卒有志一同

< 企業・団体・一般 >

キノンビクス株式会社

< 法人役員・評議員・職員（五十音順） >

北村 桂介（名誉教授）	高野 江里（課 長）	中谷 省吾（課 長）
高田 眞介（課 長）	中田 徹男（名誉教授）	

（2023年8月31日現在）

《お詫び》

「KPUNews7月号（No.214）」の24ページに掲載いたしました受賞・掲載の欄にて、掲載に誤りがありました。

【誤】薬物治療学分野、微生物・感染制御学分野 博士課程2年次生 山口 大貴

演題：近赤外発光による細胞性肺炎の生体内ライブイメージング

【正】薬物治療学分野、微生物・感染制御学分野 博士課程2年次生 山口 大貴

演題：近赤外発光による細菌性肺炎の生体内ライブイメージング

関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。



KPUNews No. 215 2023年10月発行／編集：KPUNews編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691（企画・広報課）

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。